

研究協力をお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

昭和医科大学病院附属東病院整形外科における、骨粗鬆症患者の骨密度、運動機能、身体機能に関する調査

1. 研究の対象および研究対象期間

2017年4月1日から2026年3月31日までに昭和医科大学病院附属東病院整形外科の骨粗鬆症外来を受診した患者さん

2. 研究目的・方法

1) 研究の目的

骨粗鬆症の治療でいちばん大切なことは、「骨折を防ぐこと」です。

骨粗鬆症があると、足のつけ根（股関節）、背骨、手首、あばらの骨などが折れやすくなります。

骨折すると、強い痛みで寝たきりになったり、手術が必要になることがあります。

骨折を防ぐためには、

- 骨密度を上げて骨を強くすること
 - 転ばないようにすること
- の両方が大切です。

しかし、年を重ねると筋肉が減っていき（※サルコペニア）、姿勢が猫背になりやすくなります。そのため体のバランスが悪くなり、今までより転びやすくなります。また、体力が弱ってしまう状態（※フレイル）も、転倒を増やす原因になります。

日本整形外科学会では、このように移動する力が弱くなる状態を**「ロコモティブシンドローム（ロコモ）」**と呼んでいます。

昭和医科大学病院附属東病院の整形外科では、普段の診察で撮影する背骨のレントゲン写真を使って、「腹壁仙骨間距離」という新しい体の指標を調べています。これが、腹囲（おなかまわり）や猫背の程度と関係するこ

とを、学会や論文で報告してきました。ただし、この「腹壁仙骨間距離」は新しい指標のため、より多くのデータが必要です。

当院の骨粗鬆症外来では、骨密度検査だけでなく、背骨の骨折の確認、握力や片脚立ち、歩く速さ、腹囲などの体力測定を行い、また食事・入浴・運動などの生活習慣についてもお聞きしています。

今回の研究では、これらの体力・生活習慣・姿勢の情報が、骨粗鬆症や腹壁仙骨間距離とどのようにつながっているのかを、総合的に調べることを目的としています。

② 研究の方法(統計解析)

集めたデータは、統計ソフト「Stat Flex 7.0」を使って解析します。

3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2027年3月31日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録の中から、患者背景(年齢、性別、身長、体重、診断病名、既往歴、現病歴、併用薬)および臨床検査項目(血液尿データ(血算、血液および尿生化学、骨代謝マーカー)、骨密度、体組成、脊椎および下肢の単純レントゲン写真、ロコモ度テスト、体力測定(握力、開眼片脚起立時間、歩行速度、3m timed up & go、重心バランス、腹囲、血圧)、生活習慣(食事の摂取状況、入浴回数、運動習慣、転倒回数)、フレイルの点数を調査に使用します。

5. 外部への試料・情報の提供

昭和医科大学の単施設で実施するため、該当いたしません。

6. 研究組織

研究責任者 昭和医科大学医学部リハビリテーション医学講座 永井隆士

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学医学部リハビリテーション医学講座（同整形外科講座兼任）

住所：142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8

電話番号：03-3784-8543(整形外科医局)

研究責任者：永井隆士